



令和元年度川俣町立福田小学校学校だより

しらさぎKids NO.63

令和2年1月24日

文責:校長 大内 雅之

令和2年度の学校経営に向けて ～こんな学校をつくりたい①～

学校は少しずつ次年度に向けて動き始めています。次年度はオリンピックがあったり、新学習指導要領が完全実施となったりと様々な対応が求められます。また、川俣町の学校再編を意識した取組も考えなくてはなりません。考えなくてはならないことがたくさんありますが、「福田小の子どもたちにとって『今』やらなければならないことは何なのか」という軸はぶれずに、次年度の学校を運営を考えていきたいと思っています。

しかし、様々な計画の前に、「こんな学校をつくる」という校長の方針がなければ話になりません。本校職員には、以下のような「令和2年度学校経営の方針」を示しました。

福田小学校は「地域とともにある学校」です。保護者、地域のみなさんにも開示いたしますので、ご意見等あれば何なりとお寄せください。

※2回に分けて提示します。よろしくお願いします。

令和2年度 川俣町立福田小学校 学校経営方針

■はじめに■ 施設がどうだ、環境がどうだ、お金がない、忙しい、・・・一切関係なし。今ある状況の中でただ前を向き、ひたすら子どもと共によりよい教育を目指していく、教員も子どもも毎日が楽しく、エネルギーに満ちあふれた学校にしたい。結果が出ることは最終的な産物であると考えているが、結果を出すこと（子どもをよい方向に導く）には責任をもたなければならない。教員は教育のプロであり、教育に携わることで給料を得ているのであるから。

また、学校（学級）のよさはなんといっても「集団」にある。個への対応はもちろん必要であるが、是非、集団を育てていきたい。子どもたちが集団活動を通して、よさを実感する中で、集団を構成する個のよさにも気づき、集団とともに個が成長していく学校を目指したい。

※○子ども○教師○保護者・地域の観点から目指す姿を提示します。

《子ども》元気・笑顔・やさしさ

- 元気いっぱい いつもハツラツとしている子ども
明るくあいさつ／生き生きと自分から活動／声に張り／自分の思いを言葉にする
規律の意識
- 挑戦を繰り返し、立ちあがる子ども（レジリエンス）
とにかくやってみようとする／失敗してもめげない／根拠のない自信
- パワー全開で楽しむ・活動 超まじめに参加するメリハリのある子
やる時はとことんやり尽くす／まじめな場面は本気で／振れ幅の大きさ
自分のやりたいことの自己主張－友達のやりたいこと 折り合いをつける
- 自分以外の人のためにも精一杯活動できる思いやりのある子
時には、自分の時間をけずってでも／友達を尊重する

《教師》愛情・情熱・専門性 ※風の人として

- 子どもを信じ、「人間」として、「子ども」として、「大人になる成長過程にあるもの」として愛せる教師
- よりよいものを目指し、アイデアを現実化していく前向きな教師
社会人としての常識、愚痴なし
やってみたいことをやってしまう／周りを巻き込む→「いいよ いいよ あとは〇〇が責任もつから」
- 子どものもつ力を引き出すことにエネルギーを注げる教師
力をつける技量・責任／必要とあれば／公務員の枠を超えてでも／思い出
- 「教師力」の向上に向けて、専門性磨きに努力できる教師
あの教科（領域）、指導、〇〇なら／よりよい教育活動の実践者

《保護者・地域》愛情・協力 ※地の人として

- 学校との家庭・地域との密接な関係 双方向性をもって
参加・協力 → 自分の意見をもった上での協力・交流（言い合える関係）
- 子どもにたっぷりの愛情を注ぐ保護者・地域

保護者・地域の皆さんの声 お待ちしています。

.....切り取り線.....